

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		令和4年度 第2回 川西市総合計画審議会	
事務局(担当課)		総合政策部政策創造課	
開催日時		令和4年11月14日(月) 午後7時から	
開催場所		川西市役所4階 庁議室	
出席者	委員	伊藤 嘉余子、上村 敏之、片山 優子、神谷 牧人、 澁谷 和正、中野 雅文、新川 達郎、松浦 龍基、 水野 優子、山本 利映 (敬称略)	
	その他	一般社団法人シビックテック・ラボ 市川希美 (敬称略)	
	事務局	越田市長、石田総合政策部長、飯田総合政策部副部長、 野田政策創造課長 他課員4名	
傍聴の可否		可	傍聴者数 8名
傍聴不可・一部不可の場合、その理由			
会議次第		次ページに記載	
会議結果		審議経過のとおり	

令和4年度 第2回川西市総合計画審議会 次第

日時：令和4年11月14日(月曜日)
午後7時～

1. 開会

2. 報告事項

- (1) 第6次総合計画策定にかかる将来人口推計(暫定値)について 【資料1】

3. 議事

- (1) 第6次総合計画 基本構想(素案)の検討について 【資料2】
- (2) その他

【参考資料】

- ・「市長と語る かわにし Meeting」の対話録

審 議 経 過

【開始時間：午後7時08分】

1. 開会

●**新川会長（以下、会長）** お時間がまいりましたので、令和4年度第2回川西市総合計画審議会を開催いたします。皆様におかれましては、ご多忙にもかかわらずご参加いただき誠にありがとうございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

現在、中野委員にご連絡を取っておりますのでその後おそろいになるかと思うんですけれども、現時点でこのメンバーのまま進行させていただきたいと思います。

事務局から、本日の進行の補足をお願いします。

●**事務局** 事務局より1点補足いたします。今回初めての試みとしまして、審議内容をイラストなどを使ってリアルタイムで記録していく、いわゆる「グラフィックレコーディング」と呼ばれる手法を取り入れながら進行したいと思っております。

総合計画につきまして、「市民と共有できる、わかりやすい計画とする」という視点と、成果品としての総合計画だけではなく、策定過程においてもそういった姿勢を重視すべきというお話をこれまでもいただいてきました。そこで、審議会という、一見すると難しそうに思える会議の内容を絵などを交えて発信することで、より多くの方に議論の様子をお伝えできるのではないかと考え、今回試験的な導入に至った次第です。

会議中、事務局や委員の皆様とは別に用意した画面にその様子が映っております。完成したものは議事録とあわせて後日公表する予定ですが、会議中にも随時更新されていきますので、ぜひそちらもご覧ください。事務局からの補足は以上です。

●**会長** 本日も市長さんにお越しいただいています。

皆さまご承知のとおり、先日選挙を終えられたということですがけれども、なかなか尖った公約もお出しになられたようですので、そのあたりも踏まえてひと言ご挨拶をいただければと思います。越田市長さんよろしくお願いいたします。

●**市長** 皆さんこんにちは。10月16日の市長選挙にて当選することができ、10月28日から2期目をスタートさせていただいています。

先ほど会長からもありましたとおり、今回50項目のマニフェストを掲げながら選挙戦をおこないました。私自身の一つの大きな責任としては、市民の皆さんとの「契約」でもあるマニフェストを、約4年間で着実に実行していくと。これに関して、すでいくつかの分野では新たに担当副部長を配置したり、北部の地域のまちづくりについてはプロジェクトチームを立ち上げるなどのスタートを切らせていただきました。

2回目のマニフェストをつくる中で、「総合計画をつくる上でも非常に悩ましい時間を過ごしたな」というのが率直なところなんです。何が悩ましいかというと、一つは「政治家 越田謙治郎」が約束したこのマニフェスト、一義的にはやはり市民の皆さまに対して実行するという責

任を私自身が負っております。一方でこれは行政計画に落とし込まれたわけではありませんので、実行する段階において行政計画にどのような形で落とし込んでいくのか。場合によっては、それぞれの行政計画レベルに落ちたときに少し矛盾が起きたりするのではないかと。できるだけ内容には配慮してきたつもりですが、具体的な形になったときに、総合計画と、私が1人の政治家としてお約束をしたマニフェストの整合性をどのように図り優先順位をつけるか。こういったことも総合計画をつくる上での議論になってくると思います。

当然、50項目全てを皆さんが私に白紙委任したわけではありませんので、表現等が具体的な事業になっているものもあれば、比較的抽象的に、例えば「雇用を増やします」「働く場所を増やします」のように、あえて目標のような形で掲げたものもあります。その意味で、総合計画をつくるうえでも一つの大きなご議論にもなるのではないかなと思っています。

二つ目は、マニフェストをつくる上での共通課題なのですが、具体的に書けば書くほど小さくなって「全体感が見えない」と言われ、抽象的に書くと「何をしたいのかわからない」と言われます。先ほどの「尖ったマニフェスト」はお褒めをいただいたのかなと受け止めましたが、エッジを立てれば「私たちのことはどうでもいいのか」とお叱りを受け、事業をあまねく網羅すると「何がやりたいか見えない」というご指摘を受けます。そのような中で、具体性と抽象性を組合せ、エッジを立てながら全体に配慮するという、マニフェストをつくる上での苦しみがあるのですが、これは総合計画や総合戦略をつくるうえでも、同じような課題になるんだなと思いました。

ただ、今回私が強く申し上げた「政策は子ども、教育から始める」「子どもが幸せになる」、このことについて徹底的にこだわっていきたい。とかく「子ども・子育て支援」というと、あちこちで「明石市みたいに」ということを言われました。私も明石市長とは長いお付き合いがありますし、医療費の無償化などは川西市においても拡大してきました。そのことを全面的に否定をするつもりはありませんが、やはり政治の役割とは何かというと、「一人一人がお金では解決できない課題に対して、しっかりと向き合い、皆さんから集めたお金に付加価値をつけてお返ししていく」。これこそが、政治の果たすべき役割じゃないかと思っています。選挙公約としては、派手な”無料化”とかはなかったんですけど、総合計画をつくるうえで「子どもが幸せになる、ということはどういうことか」について、市民の皆さんと再度議論していきたいなと思っています。

もう一つは、川西市は住宅都市としてまちづくりを進めてきましたが、そろそろモデルチェンジをしていく時期に来たのだなと。この二つがかなり大きなウエイトを占めました。

一方で、行政改革等、おこなっていくべきことはあるのですが、財政にしても行政改革にしても、それ自身が目的ではなくて、私たちが「こういった形で幸せな社会をつくるんだ」という全体像を見せる中で、市民の方々にもご協力いただくところを示していくという、そういった形も行政改革担当部署とは議論しているところです。

総合計画審議会の委員の皆さんとの議論は、毎回とても刺激をいただける場だと思っています。今日も忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

●会長 ありがとうございました。

これまでもずっと主張してこられたように、越田市長は「子ども」「教育」、そしてこれか

らの川西の「新しいまちづくり」、そこに中心を据えて選挙を戦ってこられました。

昨年、それらを踏まえて私たちが総合計画とどういうふうに向き合い、受け止め、そしてまた、必要なところをきちんと活かすことができるか。翻って、駄目なところは駄目と言わないといけない、というところもあって議論してきました。

これからの市政も、市長さんの約束というの、私たち自身がこのような計画を策定する、その審議に関わる立場として、言ってみれば、どのように適切に受け止めることができるかというのが問われてるかもしれません。プレッシャーをかけるわけではありませんが、市長さんのマニフェストもご覧いただくと何か参考になるかなと思いましたので、よろしくお願ひします。もちろん、もう見た方がほとんどかもしれませんが、ぜひご覧いただければと思います。余計なことを申し上げました。

その間に中野委員もおいでいただきまして、全員お揃いかと思います。

それでは審議会を進めさせていただきたいと思ひます。本日の大きな議題として、基本構想の案、これについてご意見をいただいくということになりますけれども、その前に、市の人口動態の長期的な推移を示す人口推計につきまして事務局からご説明をいただき、皆様方からもご意見をいただきたいと思ひます。事務局よろしくお願ひいたします。

2. 報告事項

●事務局（【資料1】）それでは、将来人口推計について事務局よりご説明いたします。なお、今回は暫定版となっております。報告の趣旨としましては、当市の人口動態についてご認識いただくことと、政策形成の基礎資料として、今後の審議の際に参考としていただくことを目的としております。本日の議事は「基本構想素案」についてですので、統計の概要についてご説明します。

まず、推計条件についてです。今回、国勢調査をもとに基準人口を算出しております。基準年次は2022年、令和4年の10月1日で、推計期間は2022年から2060年としております。2060年としましたのは、国が掲げる「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」において、「2060年中の日本の総人口1億人を確保する」ということが目標となっているため、そちらに合わせた形を採っております。推計方法は今回「コーホート要因法」を採用しております。これは、人口の長期的な将来予測をおこなう手法として一般的に優れているとされており、国立社会保障・人口問題研究所をはじめとする様々な機関でもよく採用されております。

自然増減と、社会増減について二つの人口変動要因について過去の動向を参考に推計した数値となっております。

続いて、自然動態についてご説明します。3ページは、出生数と死亡数について平成29年から令和3年の5カ年平均をとり、人口千人当たりへ換算した「出生率・死亡率」のグラフです。国と兵庫県、近隣自治体データとも比較しており、各グラフ中央、青に着色した棒グラフが本市の数値です。まず出生率を近隣自治体と比較すると、豊能町や能勢町、猪名川町に次いで低い水準となっております。一方で死亡率は、能勢町や豊能町、尼崎市、神戸市に次いで高い水準となっております。

続いて、社会動態についてご説明いたします。転入・転出についても先ほどと同じく、平成

29年から令和3年の5ヵ年平均をとり、人口千人当たりには換算した上で国と兵庫県、近隣自治体と比較しております。転入・転出ともに隣接する猪名川町などに次いで低い数字となっておりますが、ここで少し口頭で補足させていただきます。

転入・転出の動態を年齢構成別で見ると、0歳から9歳、30歳から39歳に関しては転入超過となっております。5ヵ年平均で、毎年大体5,500人前後の転入者がいますが、0歳から9歳に着目すると、転入者557名に対して転出者は364名で、193人の転入超過となっております。転出者に対する割合にすると1.53倍となっております。

30歳から39歳に関しましても、転入が1,115人に対して、転出が996人となり、結果119人の転入超過となっております。割合としては1.12倍で、この部分に関しては社会増と言え、家族形成期におけるファミリー層が転入されていると考えられます。一方で、就労や就学が関係していると思われる20から29歳及び10歳から19歳の層が転出超過となっております。

続きまして、人口推移グラフ、年齢区分別の説明をいたします。こちらは2022年から2060年までの推計グラフとなっているのですが、少子高齢化の進行と人口減少が継続する見込みです。

次に、年齢構成別では、今回の推計の基準時点である2022年から、第6次総合計画の計画の終期2031年に関しまして、15から64歳以下の生産年齢人口の割合が減少しておりますし、75歳以上の高齢者の割合が増加しております。また、かなり長期の推計になってしまいますが、2060年に関しては75歳以上の割合が30%以上で、生産年齢人口割合もかなり低い水準となっております。この少子高齢化が進みますと、行政機能を維持していくことも難しくなる状況です。

最後に、5歳別の人口比率の推移を説明いたします。これは、こういった年齢人口の構成になるかをピラミッド型で視覚的に示したものです。2022年から2031年を見ていただくと、次期総合計画期間におきましても、少子高齢化が進行していることがわかります。

そして2060年、令和42年に関しては高齢者の割合がかなり高くなっておりまして、今後もこの増加が見込まれています。

将来人口推計に関する報告は以上です。

●**会長** ありがとうございます。これまでの国勢調査等のデータに基づき、本市の将来人口推計をお示しいただきました。人口全体が減少するという事実と、少子高齢化も進んでいくということが、この十年間でも想定されるとのご説明でした。こういう傾向自体は数十年単位で予想されることが多いですが、中長期的にはあまり狂わないと一般的には言われておりますので、大きな動きとしてはおそらく本市も免れないだろうと思います。程度の差はあれ、少子高齢化・人口減少を前提にしたこれからのまちづくり、あるいは、子どもたちの未来を考えていくことになろうかと思えます。細かいところも色々のご説明をいただきました。

各委員からもご質問、ご意見がございました。手を挙げていただければ指名をさせていただきますので、どうぞ。中野委員お願いします。

●**中野委員** 少し遅れましてすみません。実は傍聴者としてしか認識されてなかったみたいで申し訳ございませんでした。

6 ページの図について確認ですが、左側が男性で、右側が女性というグラフの見方で間違いないでしょうか。

●事務局 申し訳ありません。そちらで間違いございません。

●会長 どうぞ水野委員お願いします。

●水野委員 ご説明ありがとうございました。一点お聞きしたいのですが、転入と転出のご説明のときに、転入超過している年齢層が0歳から9歳と30歳から39歳、まさしく子育て世帯が転入しているということで、非常に嬉しいことだなと思ってお聞きしていました。ぜひ、どのあたりから転入されているかとか、そのあたりを少し掘り下げて今後示していただけると大変参考になるなど。要は、近隣の都市からなのか、あるいは遠方からなのかとか、そのあたりの追加情報等があればうれしいなと思いました。以上でございます。

●会長 ありがとうございます。おそらく、そのようなデータは当然あるのではないかと思います。また、住民基本台帳等での記録もあろうかと思えます。少し統計的に処理をさせていただいて、ただいまのご質問に答えられるようなデータがあれば、お示しいただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。

そのほかいかがでしょうか。そうしましたら、細かいところについての必要な情報は、都度都度ご指摘いただくということで、まずは全体の人口動態についてはこのぐらいでよろしゅうございますでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

●会長 ありがとうございます。人口動態についてのご報告、ご質問等は以上にさせていただきます。

それでは本日の本題になりますけれども、第6次総合計画の基本構想案についてでございます。ここからが本格的な議事になりますので、まずは事務局から基本構想案についてご説明をお願いをしたいと思います。よろしく願いいたします。

3. 議事

●事務局 (【資料2】参照) それでは、第6次総合計画基本構想素案についてご説明いたします。

まず前提として、総合計画における基本構想の位置付けを改めてご説明した上で、基本構想の構成にかかる事務局案をお示しします。本日皆さまにご確認をお願いしたい大きな点としては、構成案や策定プロセスが適切なものであるか、というところになります。

(資料3 ページ) こちらに基本構想の位置付けを示しています。ピンクで囲っているのが基本構想、青で囲っているのが基本計画と実施計画です。基本構想は川西市のまちづくりのビジョンですとか、それらを実現するための基本的な考え方を示すものです。それに対して、基本計画や実施計画は、基本構想に掲げる未来像の実現のためにとるべき手段を指しますので、基

本構想は「ビジョン」、下2つは「手段」という違いがあります。本日の議事では基本構想についての時間を多く取りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

我々の検討案としまして、基本構想という大きな括りの中にこのようなツリーを想定しております。まず、一番上には「まちの未来像」が入りますが、ここには「川西市がどんなまちをめざすのか」というところを、シンプルかつ皆さんと共有できるようなメッセージを掲げたいと思っております。

1つ下、「私たちが大切にしたい思い」というところは、「未来像を実現するために、こういうことを念頭に置いてまちに関わっていきます」という基本的な姿勢を示すものです。後ほど補足しますが、「行政がこう思っているんです」という単なる意思表示ではなく、市民の方ともこの思いを同じくして、川西の未来に向けて暮らしの中で持っていたきたい考え方、というところをめざしたいと考えております。

今申し上げた二点は割と抽象度の高い部分になりますが、それらを日常生活のレベルにある程度落とし込んで、「普段の生活で、まちがこんな状態だったらいいな」という具体的なシーンを別途整理しております。皆さんが生活する中で実感としてわいてくるのは、この辺りで使われる言葉や表現になってくるのかなと思っております。

(資料4ページ) 本日予定している議事の要点ですけれども、まちづくりのビジョンですとか考え方を示す基本構想の部分について、その構成が適切であるか、また、後ほど説明する検討材料についても十分といえるか、という点をを中心にご議論いただきたいと思っております。といいますのも、次期総合計画については今までも「みんなで作る計画」「わかりやすい計画」「みんなで達成を目指す計画」をめざすこととし、策定方針にも定めてきました。ですので、まずはそういう視点からぶれることなく、本市のありたい姿やその考え方について、難しい言葉を多用せずわかりやすく伝えようとしているか、という点。また、それらを十分な根拠に基づき策定しようとしているかという点。大きくはこの二点について、皆様にご意見をいただければと思っております。

なお、基本計画等で大事にしたいところについては、後日また時間を設けてご審議いただきたいと考えております。

(資料5ページ) まず初めに「まちの未来像」についてです。仮案ですが、ここには川西市らしさを象徴する、一番シンプルな言葉を置きたいと考えています。ただ、それをいきなりつくるのではなく、日常にある身近なフレーズあるいはキーワードだったりを積み上げていく、という作り方ができないか検討しております。本年度すでに「市長と語る かわにし Meeting」を実施し、色々な世代の方から「川西市がどんなまちになったらいいか」等のご意見をいただきましたので、そういうところからも拾っていければと考えております。

(資料6ページ) 続きまして、その未来像の達成に向けて私たちが何を大切にしようとしているか、という考え方を4つ掲げております。こちらは、元々は策定方針で「本市の大きな方向性」として示した6つの項目を再構成したものです。この6つの項目も、昨年度に一年かけて皆様にご審議いただいた内容ですが、「市民と共有する計画」「わかりやすい計画」「みんなで達成をめざす計画」とするために、より身近でなじみやすい表現に置き換えるなどの工夫をしたほうがよいのではないかと考え、加筆修正をおこないました。こちら(資料7ページ)は対比表です。左の6つが、この右の4つに集約されているという関係性を示しています。

(資料8ページ) 策定方針でも一番上に置いていましたが、「子どもが幸せになる社会」の実現は、本市の最初の目標です。総合計画は、みんなで共有する計画、みんなで達成を目指す計画であることから、子どもの幸せを、子ども自身を含めたみんなで考えることが、これからのまちづくりのスタート地点としたいと考えています。したがって、事務局案としましても最初に「まず、子どもが幸せになります」という言葉を掲げております。

その後も同様に、総合計画策定方針から大きく意味が変わらないよう注意して作り替えたつもりですが、「ここが抜け落ちているよ」とか「これでは意味が変わってくるよ」ということもあるかもしれませんので、後程ご意見をいただければと思います。

(資料9ページ) 続いて、2つめ「人に寄り添い、お互いの個性を認め合います」についてです。策定方針に元々記載されていた「困難を抱える人に寄り添う」という点、これももちろん大事だと考えていますが、人と人の関係性はそもそも「支える―支えられる」の一方通行ではなく、みんなが誰かを支える役割を少しずつ持っているのだと考え、その要素を加えました。また「1人ひとりが地域のことを自分事として捉える」という内容もここへ取り込み、多様性のくんだりと併せて「各人がそれぞれのペースでまちに関わりながら互いを尊重し、多様な個性を認めるまちをめざす」と記載しています。

(資料10ページ) 3つめは「未来に責任を持ち、持続可能なまちをめざします」です。こちらにつきましても、内容は前回とそこまで変わっておりません。先ほどの人口推計の話もありましたように、今後はどうしても生産年齢人口が減り、後期高齢者の割合が高くなっていく…という中では、これまでと同じような人的資源やサービスも見込めない状況です。このまちを次の世代に繋いでいくためにはどうしたらいいだろうか、ということをもみんなで考えていきたい、という点を意識して書き換えております。

(資料11ページ) 最後「日々の暮らしで感じられる幸せを大切にします」についてです。元々が「何気ない日常生活の幸せを増やしていく」という表現でしたけれども、幸せの定義自体が人それぞれ違う中で、では個々が幸せだと感じられる場面やきっかけってどんなものがあるだろう考えたときに、やはり一人一人に安らげる居場所だったり、充実した時間を過ごせる、という環境があることではないかと仮定し、このような表現としております。

また、一人ひとりがプレーヤーとしてチャレンジができることと、その様子を互いに応援しあえる雰囲気というのも、きっと幸せを感じられる要素になるのかなと思ひ、先ほどの表現に集約して「日々の暮らしで感じられる幸せを大切にします」というタイトルに置いております。

今申し上げた4つは、特に施策上でのジャンル、とは限定しておらず、例えば最初に申し上げた「まず、子どもが幸せになります」というところも、なにも子育ての分野だけで完結するものではなく、みんながそういう視点で日々を過ごしたり、何かに取り組みましようという姿勢を表したものです。

(資料12ページ) その下の階層では、「まちの未来像」を子育ての分野であったり、福祉であったり、あるいは災害等の分野であったりと、もっと具体的な日常シーンに落としたときに、「川西市がこんなまちになったらいいよね」と市民が日頃思っておられることとお聞きして、みんなでイメージが共有できるよう整理しています。これらは便宜上6つのグループに分けておりますが、仮であり、まだ検討の余地があると考えています。

(資料13ページ) 具体的な例として防犯・防災の分野を取ってきたんですけども、この四角で囲んでいる部分には、「こんなまちになったらいいな」と市民が感じておられることが複数入るようなイメージで今構成しております。

今後、市民会議等の様々な取組みを進めるにつれてここの要素が増えていき、加筆・修正されていく予定です。例えば、かわにしMeetingでは「こんなことに困ってるからこうしてほしい」と具体的な手段を仰る方もおられました。本来このあたりは基本計画等に大きく関わってくる話ですが、基本構想案を考える上では、一旦はそんな意見も含めて「じゃあまちがどういう状態だったら、みんなが笑顔で生活できるだろうか」という部分を検討している状態です。

(資料14ページ) は、いろいろな市民に関わっていただく予定の取組みを示したものです。黄色で塗り潰したところ(①②③④⑤)はすでに実施しています。今回は、その中から「かわにしMeeting」と「地域団体の方との懇話会」で出た意見を例に、どういう落とし込み方をしているかというイメージを共有いたします。

まずかわにしMeetingでは、本当に色々な世代の方にご参加いただきました。参加者には「みんなが笑顔で暮らせるために、川西市がどんなまちになったらいいと思いますか、また、あなたはどんなことをしていきたいですか」と問いかけたところ、さまざまなご発言をいただきました。事務局でも発言内容をいくつかのグループ分けまして整理をおこないました(資料15、16ページ)。

(【参考資料】) こちらは参考資料としてお示しするものです。細かい説明は割愛しますが、「市長と語る かわにしMeeting」では、市民の皆さんが思っていることを市長が受けて直接に答える、ということ市内14地域でおこないました。

大きく分けただけでも230ものコメントがありました。なお、一人の発言に対し「私はこう思う」とほかの方が意見を述べられ盛り上がった場合は、まとめて1件とカウントしています。

かわにしMeetingでの対話内容も、先ほどの日常生活の理想とするシーン(未来像の実現に向けて川西を動かす6つの目標)に、エッセンスとして取り入れていきたいと考えております。

全体を通して、子ども・子育てや市民活動のことについてお話しされた方が多くいらっしゃいました。例えばその子ども・子育てのことについて、シニア層の方がポジティブに触れていただく場面も多々あったことが、今回のかわにしMeetingの特徴的な部分かなと思っております。

具体的な例で、シニア層の方から「若い人に側にもなってもらうのが一番で、高齢者も若いお母さんと赤ちゃんに会えること元気がもらえます」というお話が実際にありました。これを「子育ての話」として限定してしまうのではなく、「家庭だけで頑張るのではなくて、それを地域で見守り、困っているときには支えていこうよ」という「多世代交流」も踏まえたイメージ置き換えられるのではないかと思います、事務局案としてこのように記載しております(資料18ページ)。

ほかに公園についてのお話もたくさんありまして、「ボール遊びができない」とか「ごみが散らかっている」というような、「こういうこと困ってるねん」というネガティブなご意見も多かったんですけども、ではそのような現状から翻って「どういう状態になっていたらいいだろうか」というのを考えた時、「身近な公園の在り方を地域で考えて、その結果、みんなが気軽に利用できたり交流できる場になっている」。こういう状態になったらみんなが笑顔で暮

らせるんじゃないか、というような整理の仕方動いているところです。ですので、出たご意見をそのままを入れるわけではなく、こちらである程度かみ砕いて再構成する、という置き方になっております。

(資料19ページ) 地域団体との懇話会につきましては、市長と各コミュニティ組織の会長や役員の方とが直接懇談された場になるんですけども、市民活動の最前線で活躍されている方々ですので、担い手不足のことなどを言われたケースもあったんですけども、中にはコミュニティの方たちから、「子育ての困り事を解決、支援できないか」というご提案もありましたので、こういった色々な取組みから、基本構想の土台部分を固めていけたらなと考えております。

最後になりますが、参考として、他市の総合計画を2つ紹介して事務局の説明を終わりたいと思います。川西市が全くこれと同じものをめざそうとしているわけではないんですけども、本市が掲げます「みんなと共有する計画」とか「わかりやすい計画」を体現する例として参考になるなと思い、この場に持ってきました。

まず横須賀市ですが、ここは人口40万人の中核市です。通常これぐらいの規模の自治体がつくる総合計画は、ボリュームもありいかにも行政がまとめた、という体裁が多い印象ですけども、横須賀市はイラストや大きいフォントを使って、伝えたいところをコンパクトにまとめておられます。その点では、本市の狙いとリンクするのかなと思っております。

続きまして、丸亀市ですが、こちらは「みんなで作る計画」とするという姿勢が色濃く出ています。「みんなでまちをつくりましょう」というメッセージを、市民目線のセリフやイラスト・写真とともに載せており、市民がメッセージを受け取りやすい工夫をされています。我々としても、中身を充実させることはもちろんのこと、こういったやり方もみんなで共有する計画とするために、とても有効な手段かなと思っております。

長くなりましたが、事務局からの説明は以上となります。

●**会長** どうもありがとうございました。これまでも議論してまいりました策定方針などを、どのように基本構想に落とし込んでいくのかということで、事務局でいろいろ知恵を絞っていただいて今日のような形にづくっていただきました。

また併せて、横須賀市、丸亀市は本当に絵が綺麗ですね。総合計画のイメージとしてはこんなものができるといいですね、というようなことを共有できたかと思います。

基本構想の枠組みの中で、私たちがこれまで議論してきました6つの基本的な方針を、今度は4つの考えに組み替えているところ、また、それらを6つの具体的な領域、これはもう生活領域を分けるとこんなものかなという感じもありますが、そういうところに分けていく、そのときの書き方だとか、そこに行き着いた考え方についても、少し例も含めてお話をいただきました。

まずこうした基本構想の組み立て方と、そこに盛り込むべき事柄、さらには、どこまで何を変えていけばいいのか。その際、「みんなで作る計画」そして「みんなで行ける計画」ということになるかどうか。そういう観点でもご意見、あるいはご質問をいただければと思います。

資料はあらかじめ皆さんのところにもいっていたかと思いますが、それも参考に、どうぞ

ご自由にご意見いただければと思います。ご質問なんかでもいいですよ。ここはどうなってるの、というところからも始めていただければと思います。

上村委員どうぞ。

●**上村委員** 質問させてください。まず、総合計画の最終年を2031年と聞いてますけれども、この資料にある未来とか、子どもが幸せになる時点って一体何年を想定してるんでしょうか、というのが1点です。

もう一つは、市民会議をやられるということなんですけど、これはいつの時点で、どのような頻度で、何回ぐらいとかそういうことなんですけれども、実施されるんでしょうか。どのような規模でということ、よろしくお願いします。

●**会長** ありがとうございました。

それでは事務局から少し今のご質問をお答えいただければと思います。2031年目標、そこが、子どもたちの笑顔の未来ということになるんでしょうか。

●**事務局** まず一つ目の、ここで言う「まちの未来」という時の未来についてですが、総合計画自体は8年間で今考えておりますけれども、未来というときにはもう少し先を見据えております。それが今、具体的に10年なのか20年なのかというのは十分に決めきれてないんですけれども、8年というよりはもう少し先なのかなというふうに考えているところです。

二つ目の市民会議につきましては、年明けてから、4、5回程度で実施できればと検討を進めているところです。参加者数については、30から50名程度で考えておりますけれども、申込み状況によって柔軟に対応したいと考えています。以上です。

●**上村委員** ありがとうございました。市民会議はどのような形でやろうとしていますか。

●**事務局** 市民会議のやり方については、これから検討していこうとしているところです。ま前回、総合戦略をつくったときに無作為抽出で参加者を募ったわけなんですけれども、今回も、全員、あるいは一部無作為抽出の形を取り入れていきたいと考えております。

●**上村委員** わかりました。ほかの委員のご意見を聞いてから、また後で発言したいと思いません。

●**会長** ありがとうございました。それでは、その他いかがでしょうか。どうぞ澁谷委員お願いします。

●**澁谷委員** 先ほどの「未来」というところ、単語として使われがちなのかなと私も少し引っかかるころがありまして。「将来」であるとか、また市長が考える「川西市時代」のほうがしっくりくるんじゃないかと考えたんですけれども、いかがでしょうか。

●**会長** ありがとうございます。言葉遣いとして「未来」より具体的にイメージしやすい表現があるかもしれない。先々の姿というのを想定するような要望もあるのではないか、というご意見ございましたが、事務局でのお考えとして、「未来」という言葉を使って投映する距離を大きく捉えた理由などございましたら、お願いしたいと思います。

●**事務局** 実現していきたいまちの姿を、基本構想の中で出していくわけですがけれども、具体的にご指摘のありましたように、未来とは一体いつのことなのかということとあわせ、言葉の使い方として、未来がいいのか、将来という言葉がいいのか、また違う言葉がいいのかというのを検討したいと思います。

●**会長** ありがとうございます。ここはむしろ、委員の皆さま方から「こんなのもあるよ」とか「これのほうがぴったりだね」というようなご意見もいただければいいなと思いますので、よろしくお願いたします。神谷委員お願いします。

●**神谷委員** さっき言われた横須賀市の計画を見ましたが、たしかにわかりやすく構成されているなと思ったんですけども、一方で「ひと」「まち」「しごと」「環境」、言ってみれば意外と当たり前のこと言ってるなというか、当たり障りがないというようにも感じました。

その点で、川西市の「4つの基本姿勢」にある「やってみたいことに自らチャレンジし、それを応援」というところは、少し特色があるのかなと言う気がしています。

もともと私は沖縄出身で、今やっている福祉事業のために川西に来ています。川西で生まれ育った主婦の方が「面白い福祉があるんだな、どんなものだろう」と応募してきて、今パートとして働いてくれているのですが、12月いっぱい辞めるんですね。その理由が「自分はコーヒーが好きで、ネット販売などをやって軌道に乗せたい」と。さらに、「ただやるんじゃなくて、月1回とか週1回、この福祉施設のキッチンを借りられないか。ここでコーヒーを売ること、地域の人にもっとここへ足を運んでほしい」という相談を受けたんです。「最初は福祉のことが全然わからなかったけど、実際に働いてみて、相談できる人や使える制度を知った。でも知らない人があまりにも多いから、私はそれをつなぐ役割をしたい」と。それができるのって、住んでいるまちへの愛着だったりするんですよね。川西で生まれ育った彼女が、川西のことが好きで、これから40代を迎えるにあたって、福祉の場で働いた2年間の経験から「福祉を知らない人に何かを届けたいんだ」と言う。

「チャレンジしてみたい」という人が何かを発信して、それをみんなで応援していくのが、川西市が考えていることなんだろうなと思います。単に「起業したい人支援します」とか「空いてる商店街貸すので、事業計画書いてくれれば上限1,000万円まで助成します」ということではなく、こういう人たちが増えるというのが、「未来像」のイメージなんだろうなと思って今聴いていました。なので、ここの「チャレンジ…」は川西らしさを出しているな、と当事者として感じています。

●**会長** ありがとうございます。

いいお話ですね。ソーシャルアントレプレナー（※）という言い方もありますけれども、こ

のまちにはそういった精神に溢れた方がたくさんおられる、という可能性がまた一つ見えてきました。一人一人がプレーヤーとしてチャレンジしていく。それができるまちになれば、この計画自体も中身がどんどん充実してくるような気がしました。

皆さま方、今のお話に触発されて…というところもあるかもしれませんが、ご意見やご質問あればお願いします。どうぞ伊藤委員。

(※) ソーシャルアントレプレナー

「ソーシャル（社会の）+アントレプレナー（起業家）」を表現する言葉。社会貢献に対して強い思いを持った起業家を指す。

●伊藤委員 ただいまのお話に関係するかは分からないのですが、スライド資料7ページの「4つの基本姿勢」で、元の「一人一人がプレーヤーとして活躍できる舞台をつくる」が「日々の暮らしで感じられる幸せを大切にします」となっているところに繋がる話かと思いません。

スライド資料14ページで、いろいろな年齢層にわけて声を聞く、という補足があったのですけれども、年齢別だけじゃない声の拾い方をどう工夫するか。小学生でも、元気のいい、生徒会とかに参加できるようなお子さんばかりではなくて、例えば障害のあるお子さんは「”みんな”の中に入ってるのかな」と感じる人も多いと思うんですね。やはり、いわゆるマイノリティと言われている人たち。社会人という括りでも、非正規雇用の人や、シングルマザー・ファーマーの人であるとか。普段「私たち・皆さん」と呼ばれる中に自分が入ってるのか少し不安になる人たちにも、声の集め方を工夫して「いや、みんなの中に入っているよ。みんなにチャンスがあるんだよ」と伝わるような仕組みにしていけると、そこが川西らしさになるというか、「このまちはみんなが幸せになれるんだな」と感じられるのでいいなと思いました。

●会長 ありがとうございます。計画をつくる課程でも、また計画の中でもそうですけれども、「みんな」と言うときに実は多数派と少数派に分かれてしまうのを、どのようにフォローしていけるか。また一方で、どのように「みんな」の声に応える計画にしていけるか。そのためには計画プロセスから考えないといけないということです。実際には本当に難しいところが多いと思いますが、ここは委員の皆様方からのご助言もいただきながら丁寧につくり込んでいければなと思っております。

事務局が市民参加の仕組みを多く設けているのも、そういう努力だろうと思っております。それをできる限り広げていく、というより、本当は「誰1人取り残さない」というのが基本原則であるはずなのでなかなか難しいかもしれませんが、しっかりと踏まえて進めていただければと思います。

そのほか、いかがでしょうか。どうぞ山本委員お願いします。

●山本委員 まず感想からですけれども、かわにしMeetingで出た膨大な意見を一つ一つ拾い上げて反映してくださったということに、皆さんのすごい努力があったんだろうなと思ったので、感謝申し上げたいと思います。

次に伊藤委員のご意見も踏まえてなんですけれども、かわにしMeetingは私も地元のPTAがきっかけで参加しました。コミュニティの会長は「自分があまりしゃべっても…」というのでオンラインで聞かれていたんですけれども、皆さんの発言を受けて「子育てとか、困ってる人が結構いるんだな」と実感されたようで、そこからPTAとの連携もすごく深まったということがありました。市民会議やタウンミーティングというのが、何か川西市の特徴であり面白いなと思ったので、今後もしていただけたらいいかなと思いました。

そういったところで、今後の市民会議でも無作為抽出がいいなと思う一方で、伊藤委員が仰ったように、マイノリティの方が声を上げる場がどういった形であるのかな、というのもし感じました。（資料14ページ）例えば、まだ実施されていないアンケートとか、「高校生、マチをあそぶ。」プロジェクトとかですかね、その辺りもどんな感じで進められるご予定なのかな、というのと、声の大きい人だけが来るような場ではなくて、無作為抽出でも選ばれず、そこから漏れるような人の意見を吸い上げる場っていうのも、あってもいいのかなとは思いました。この辺りの進め方とかで、予定があれば教えていただけたらなと思います。

●**会長** 市長どうぞ。

●**市長** 私がすぐでしゃべってしまうのが、この総合計画審議会のいいところが悪いところかわかりませんが、すみません。

答えを言うと、私自身というか私たちも非常に悩んでいるところです。例えば障害があるとか不登校であるとか、ヤングケアラーとかもそうかもしれませんが、彼らを支援をしている方から「実情はこうだよ」とお聞きするのは、我々としてもむしろ得意技でありますから、そういった方たちとの対話の場は持てるし、持ちたいなと思っています。

ただ、学校に行けない子どもたちや、シングルマザーで生活に困っている人のお話を私たちが直接聞く機会をどうやったら持てるのか、どうアウトリーチしようかなという部分はとても悩んでいますので、「こんな方法どうだ」というのはむしろご意見いただきたいな、というのが正直なところです。

ただ、広報のあり方について、とても工夫はしているのですが「説明がとても難しく、わかりにくいよね」と。中には私の話を1回聞いてもらったら分かることもいっぱいあるだろうと思うので、これは今初めて世の中に公表するので、ここだけに…と言ってもオープンな場なのですが、例えばインスタライブを使って、事前に質問やご意見をいただいて私がそれに答えると。

今回のかわにしMeetingでも、困っている当事者からご発言いただく場面も比較的多くありましたが、これは多分、非常にレアなケースです。自分から手を挙げて名乗って、というのがなかなか難しい方もいらっしゃるのでは、匿名性が一定担保される場があってもいいのかな、ということで悩んでいます。先ほどの案は、広報戦略の中で試しにちょっとやってみたいと思っていました。皆さまのお話をお伺いして、私が答えるということだけじゃなくて、市民の皆さんからご意見をいただく一つのツールとして活用したらいいのかなとも思い、本邦初公開してしまいました。まだ議会にも言っておりませんので、取扱いについては十分ご配慮いただければと思います。あとは、事務局から補足ありましたらお願いします。

●**会長** それでは事務局から、もう少し色々なことを考えておられると思いますので、補足があればお願いします。

●**事務局** 小・中学生へのアンケートや、「高校生、マチをあそぶ。」プロジェクトについてですが、特に高校生の取組みなどを本当は夏休み中に実施したかったのですが、ちょうどコロナと重なってしまったので実施できませんでした。現在、来年春休みあたりに実施できないか調整をしているところで、再度やり方も考えたいと思っていますところです。

もう一つ、マイノリティの方からの意見の集め方についてです。これに関しては、私たちには、令和元年度に第2次総合戦略をつくったときの反省があります。具体的に言いますと、無作為抽出で参加を呼びかけたものの、実際に、例えば障害をお持ちの方がこ来られたかという、少なくとも目で見分ける範囲ではいらっしやいませでした。

今回はその反省を踏まえ、実際のリアルな場には参加しづらい方について、資料14ページの右下にありますけれども、例えばお仕事で来られない方や障害をお持ちの方、あるいは特別な事情で参加をしたくないという方についても、意見を言うことができる場を市として確保していかないといけないじゃないかという思いで、意見収集オンラインプラットフォーム設け、ご自身の、あるいは他の方の意見に対して新たに意見をしてもらおうなどといったこともしていきたいと考えているところです。以上です。

●**会長** ありがとうございます。

神谷委員から手が挙がってますね、どうぞ。

●**神谷委員** 障害福祉に関してのマイノリティの方の意見をどう集めていくか。これに関しては、今、川西市に基幹相談支援センターというものがあって、川西市社会福祉協議会が市の委託を受けて業務を行っているんですけども。そこに少し、障害を持った人たちの意見を収集してもらって障害福祉計画に反映させていく、プラス、もうちょっと大きなステージで考えていけないところは何なのかを、社協に少し動いてもらう方法もあるかなと。ただ、例えば健康保険料で医療費の3割負担が将来5割負担になったら大変だな、というのは国の社会保障制度の話であって、そういう話もおそらく出る中で、総合計画としてどこまで意見を拾うのか。

これは障害施策に関する話だから、すでにある制度をどう運用していくかという内容だよねっていうのと、まちづくり全体の話として広く意見を拾うっていうのはすごい難しい作業になってくるんじゃないのかなと思います。ただ、どんな意見であれ「適切ではない意見を言わないでください」ということではないだろうから、何らかの機会をつくったほうがいいと思うんですけども、これを事務局で拾うとなるとすごく大変なので、このケースで言えば、そこはやっぱり障害福祉計画というものがありますし、そういう意見を拾うことを担当課に少しお願いしてもいいのかな、と思いました。以上です。

●**会長** はい、ありがとうございます。実務的な観点でもアドバイスをいただきましたが、その他いかがでしょうか。どうぞ水野委員お願いします。

●**水野委員** 多くの人の声をどこまで拾っていくのか、という話は少し置いておいて、多くの意見から総合計画をつくっていく、というこのプロセスは非常にすばらしいなと思っています。1個お聞きしたかったのが、13ページの「6つの目標」というところ。要は、今回広く拾い上げたかわにしMeetingとか住民アンケートといったところから、上向きの矢印があるように「6つの目標」をつくり上げていく、というイメージで間違っていないでしょうか。

また、「6つの目標」はひとまず仮、というご説明だったと思うんですけども、その辺りを確認させていただきたいなと思いました。

●**会長** はい、ありがとうございました。お考えの通りだと思いますが、事務局から確認をお願いします。

●**事務局** はい。その通りです。

●**水野委員** わかりました。だから今のこの「6つの目標」は預かりという形で、今後また出てくるということですよ。その前提で、構成の話をちょっとだけ申し上げたんですけども。基本姿勢があって、そういう二つの目標というような形になっている。

この「6つの目標」というのは、分野といいますか生活シーンだというような説明が先ほどあったかと思うんですけども、今後、この基本姿勢とその6つの目標が、たて糸とよこ糸のような形になるように構成していただけたらなと思います。

今の目標が仮だということなので、さらっと流していただいたらいいと思うんですけども、何かといいますと、何となくこの6つの目標の字面の中で、基本姿勢なんじゃないかと思えるようなものがあったりするので、あくまでも姿勢と施策分野という辺りを意識して、市民の意見を集約していただけると大変いいなと思いました。

そこが混ざってしまうとなかなかわかりづらいことになると思うので、その辺りを少し意識していただけたらと思います。以上です。

●**会長** ありがとうございました。具体的な形をイメージして言いますと、基本姿勢を横軸に4つ取って、そこに6つの目標を縦に並べたときに、クロスする領域として基本目標の中身をつくっていけるかということが問われているのだらうと思いますので、私たちもそうした方向で情報収集や整理を進めていかなければならないのですが、事務局でも意識をしておいていただければと思います。水野委員そんな考え方でよろしいでしょうか。

●**水野委員** はい、ありがとうございます。

●**会長** ありがとうございました。そのほか、いかがでしょうか。

どうぞ、片山委員をお願いします。

●**片山委員** (資料7ページ) 基本姿勢なんですけれども、旧の方針「子どもが幸せな社会を

形成する」から、新しく「まず、子どもが幸せになります」と断定されている部分が川西のトップに来ているのはすごくいいなと思います。

前回、じゃあ具体的にどう幸せにしていくんだというところで、やっぱり子どもは勝手に幸せになることはない。お母さん、お父さんの笑顔だったり、親の幸せっていうところを市の中でどうしていきんだっていう、その話まで出た気はするんですけども。

私に関わっている、子どもが小学校中学校に行っている親御さんたちの話をよく耳にする中で、子どもの担任の先生が年度途中で退職するとか、あと教員が圧倒的に足りていなくて、教頭先生が今うちの子の担任なんだとか、教育現場の危機的な状況をよく耳にするんですね。

前回の審議会の中で教育現場の話とか教育の改革とか、そういった具体的な話が挙がったような記憶はないんですけども、やはり「子どもが幸せになります」と一番上に持ってきたということは、必ず変わるんじゃないかと思わせるようなことがないといけないんじゃないかって。何かもし、今取り組まれているものがあれば、いかがでしょうか。

●**会長** ありがとうございます。具体的なシーンも、どう構成するかまだこれからのところもありますけれども、子どもの幸せを一番目に持ってきていて、これに応えられるようなことは当然色々な面で考えられると思うのですが、教育という場面での改革は、多分その中でも細かいものの一つだとは思いますが。かわにしMeetingや何かでのご意見とか、事務局のほうでも少し把握しておられるのがあれば、ご紹介いただくと今後の参考になると思うのですが、いかがでしょうか。

●**事務局** 片山委員の今のご指摘のなかで、家族が幸せになると子どもも幸せだ、というお話ありました。親と一緒に暮らしてる方、あるいはそれ以外であっても大切な方ですね、そういう方も幸せになるような政策をあわせておこなっていく、これはもう間違いないことだろうと思っておりますが。具体的に目玉になるような何かというのは、今ここで何か申し上げるものを持ち合わせておりません。また何かお示しできるようになれば、その段階でご報告したいなと考えております。

●**会長** これから示していきたいということですので、もうちょっとお待ちくださいということのようです。むしろ片山委員からも「こんなのどう？」というのはぜひ出していただければと思います。よろしくお願いします。

次に中野委員、お願いします。

●**中野委員** 事務局でいろいろまとめていただいて、大分わかりやすくなってきたと思います。今の議論ですが、「まず、子どもが幸せになります」というところが一番、この計画の肝になる部分かと思えます。

ただ、「子どもの幸せとは何だ」というところをしっかりと議論する必要があると思っております。教育の話が出ましたけども、果たして教育だけなのだろうかと感じました。子どもの幸せとは何なのかということをもう少し掘り下げないと、具体的な施策に結びついていかないと思います。

子どもという明石市の例がよく出てきますが、明石市の場合は、子どもの幸せではなく、子育てする親に対する支援ですので、今回川西市がめざそうとする方向とは、全然違うものだと認識しています。

実際に子どもの幸せとは何かと考えると、例えば子どもが自立していける、あるいは子どもが興味を持っていることに対してサポートする等ということかと思えます。具体的にどうするかはこれからの議論だと思えますけれども。

それから、事務局の説明の中で「みんなで」という言葉が、一つ大きなキーワードとして出てきたように思います。今各自治体のあらゆる場面で「みんなで」ということが盛んに言われていますが、これについては「みんなできつらざるを得ない」世の中になってきているのだと思っています。一つは、市民の価値観が非常に多様化してきていること。それから、もう一つは、将来どんどん成長していくという世の中ではなくてきているので、行政側が一方的にサービスを提供するということが財政的に不可能になってきていること。

その2点がありますので、行政サービスの中にも、市民に参加してもらわなければより充実したサービスができない場合があると思います。そこで、市民が参加するプラットフォームをいかにうまくつくっていくかが、一つの肝になると思います。「みんなで計画をつくる」段階で「みんなはどう達成するのか」という方法論も含めて議論をしないと、ビジョンばかり先立って実際にやるとなったときに、何かきれい事だけをつくってしまったと反省しなければならなくなるような気がします。

やはり、出口の部分をしっかり見据えて議論していくことが非常に重要になってくるのかと感じています。以上です。

●**会長** ありがとうございます。2つの重要なポイントをいただきました。子どもの幸せは、子どもたちに聞いてみないと理解できないですし、学びやあるいは育ち、一人一人の夢や希望を、どういうところに見いだしていったらいいのか、皆さんと一緒に考えたいと思います。事務局も、色々なデータ含めて検討していただければと思います。

みんなできつらざるを得なくなっている、ということもご意見いただきました。本当にその通りだと思いながら、同時に、みんなで作る具体的な方法論というのを、事務局も色々な方法を考えてくれていますけれども、基本構想・基本計画の実現にあたって、そういう参加の手だてをきちんと埋め込んでいかなければ、「みんな」というのが空振りに終わってしまうこともあろうかと思いました。ありがとうございました。

上村委員いかがでしょうか。

●**上村委員** 6つの大きな方向性を4つの基本姿勢に集約されたことは、OKだと思います。

その上で、先ほど中野委員からも「子どもの幸せって何なんだ」という、これ非常に重要な話なので、画面共有できますかね。

要はですね、未来のイメージを、市民会議などからどうやって抽出していくか、ということです。「まず、子どもが幸せになります」はとても良いと思いますが、じゃあ今の子どもたちに意見を聞けるかということ、実際はとても難しいわけです。それでも意見を聞きたいわけで、この川西の子どもは何を思っているのか。あとさらにですね、まだ生まれてない子どもたちは

何を願っているのかということで、私が関心があるのは、どうやって未来像を市民から出していくか、というこのプロセスなんです。

新川先生はおそらくご存知だと思うのですが、「フューチャーデザイン」といって「この場にいる人は2050年から来た人になる」と。それでワークショップをするという方法です。これ今結構注目されていて、未来人になってみて、そこから提言をしようという試みです。

これは岩手県矢巾町の資料ですけれども、要は未来人と現代人で話し合うという構図です。未来の中に私たちが考えている子どもの幸せが見えてくるんじゃないかなと思うんですね。

例えば松本市でも、次世代交通政策について将来世代と現在世代に分かれてワークショップをして、意見を出し合うということをされています。こういった取組みを市民会議の中でやるのは結構面白いんじゃないかなと思います。以上です。

●**会長** ありがとうございます。フューチャーデザインは色々なところで活用されていて、何と評判もいいみたいです。ぜひ事務局でも検討して見ていただければと思います。

松浦委員、どうぞお願いいたします。

●**松浦委員** まず皆様のご発言も伺ったうえでの感想のようなものですが、「みんなでつくる」ということで、できるだけ多くの市民の方からいただいたご意見を丹念に調べて集約すると、どうしてもこう総花的になるといいますか、当たり障りがなく誰からも文句の出ない、特徴のない計画になるような感じがします。

その中で「まず、子どもが幸せになる」という基本姿勢は特徴的な部分であると感じました。一方で「子どもの幸せ」を具体的に実現する要素を挙げていくと、例えば「自分の居場所である家は一定の整った環境が必要」、「近くに公園等遊べるところが必要」、「学校・教員・クラスメイト等を中心に教育環境も大事」、「そもそも両親や祖父母が幸せでないと子どもは幸せになれないのでは」など様々あると思います。そうするともう何でもありになってしまいますが、やはり「川西らしさを出す」というのは「どこかに注力する」ことであり、逆に言うと、「どこかには注力しない」ことでもあるのではないのでしょうか。注力しないことを総合計画に書く必要はないと思いますが、やはりこの審議会の議論の中では、まず子どもを幸せにするためには別の世代のこういう部分を少し我慢してもらおうとか、そういう議論も必要ではないかと感じました。

構成案の（２）～（４）については、おそらく誰からも反対が出ない内容だと思いますので、特に意見はありません。私個人としても大賛成です。

この「基本姿勢」という部分で川西市らしさを出すのはなかなか難しいかもしれませんが、私としては他の1,700自治体や川西市の過去の総合計画と似たようなものではなく、「令和の時代の」「川西市らしい」総合計画とはどうあるべきか、色々思いを巡らせていたところです。

それともう一つ、「未来とは具体的にいつのことか」という話についてですが、私の専門のICT分野で言うと、『自治体戦略2040構想』という総務省の報告があります。どういうものかということ、「2040年頃になると、少子高齢化の進展で自治体職員の数が半分ぐらいになるところも出てくるが、それでも現状と同等の行政サービスを維持する必要がある。その対策として、人手をかけておこなっている非効率な事務をデジタル化したり、AIで自動化したり、地

域の力を借りるなどして行政の効率化を図るべき」という内容です。分かりやすい例としては、「コンビニ交付」の例が挙げられます。住民票の受け取りについて、これまでは市役所の窓口で職員が対応していたのを、コンビニの自動交付機でも受け取れるようにすることで、住民の利便性を向上させ、かつ職員も手を介さなくて済むようになるというものです。

ですので、この総合計画の中の「未来」というのは何種類かあって、総合計画最終年の2031年というのが中心にはなりますが、そこから更に10年後の2040年というのもあり得るのではないかと。また、中国だとたしか2049年になるのでしょうか、「建国100周年に”社会主義現代国家”になる目標を掲げた」というニュースを見た記憶がありますが、これは約30年後の話です。

10年後の目標、20年後の目標、30年後の目標というように体系立てることで、「この計画は2031年での達成をめざす」、「この長期目標は、2031年までにここまで進捗し、2040年に達成をめざす」、「この理念は達成という概念はないが、2031年までにここまで、2040年にここまで、2050年でここまで行きたい」といった整理になるイメージでしょうか。ただ、30年はちょっと長過ぎるなども正直思っています。以上です。

●**会長** ありがとうございます。

今私たちの計画の未来ということについて、10年後ではなくて一応はこの8年後の目標、それから先の20年後の未来、そしてひょっとすると30年後の理想みたいなものもありそうかな、と思いながらお話を聞いていました。そうすればするほどますます一般的、総花的になりそうですね、本当に子どもたちの幸せということを起点にして、どのくらい優先順位をつけるか。最初の8年と、その次のステップまで考えていけると、きっと先々も使える計画になっていくんじゃないかなと思いました。厳しい未来になるという予測もありますが、でもそれを条件にしながらむしろ、その中で、私たちが作り上げていけるもの、そこに未来を感じていければと思いながら聞いておりましたので、皆さんも一緒に考えていただければ心強いです。ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

どうぞ伊藤委員お願いします。

●**伊藤委員** 皆さんのご意見を聞いていて、やっぱり一番最初に「まず子どもが幸せになる」というところがすごくいいなと思っていて。先ほども意見が出たんですけど、よく、子育て支援とかの文脈の中で「子どもが幸せになるにはまず親を支えること」と見ますが、それによって「子どもが最優先にならない」とも言えるけれど、まず、それを言い訳にしない。親を支えることによって、子どもを…ではなくて、まず、子ども。今、子どもである人たちの、今ここでの幸せをっていうところを最初に持つてくるというのが、私はすごい川西の特徴であって、すごくいいなと思っている部分です。

やっぱり一番小さくて声を上げにくいところをまず幸せにするっていう、そのためにみんな考えてるんだという姿勢が最初にあって、他のものが続いていくのがすごくいいなと思いました。感想ですが、そこは絶対大事にしてほしいなと思っております。

●**会長** ありがとうございます。とても大切な点だと思います。今の子どもたちを大切にす

るということが、次の子どもたち、その次の子どもたちに次々と幸せがその度合いを上げられるような、そういうものになったらもっとすごいなと思いました。ありがとうございました。

中野委員手が挙がっていますが、いかがでしょうか。

●中野委員 「子どもを大切にすることとは高齢者を切る」というようなことに、予算的にはなってくるのでしょうかけれども、ちょっと綺麗事を言うようですが、「みんなで達成をめざす」という視点で考えるならば、子どもが幸せになるという部分に、高齢者に参画してもらい、両方Win-Winをめざすというような仕組みをいかにつくっていくか。限られた財源の中で、そのような仕組みをみんなで真剣に議論して形づくっていくことが大切だと思っています。以上です。

●会長 ありがとうございました。本当にそういう計画が実現されて、そのプロセスでみんなの幸せがつくられていく文化みたいなものができて、子どもたち自身もそうですが、年齢層関係なく、子どもたちの幸せが起点になりながら、ここからみんなが幸せだねというふうに思っただけのような社会に変えていくみたいなことも、あってもいいかなと思いつつながら中野委員のお話を聞いていました。ありがとうございました。

すみません、色々お話を聞いていたら時間を相当使ってしまいました、この基本構想の考え方、大枠は今日のところではそれほど異論はなかったかと思います。

文言であるとか、あるいは目標の設定の仕方等々については今後、委員の皆様方から色々なご意見も聞きながら進めていくことになろうかと思っています。

最後にこれだけは言っておきたい、聞いておきたいということがあればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ神谷委員。

●神谷委員 かわにしMeeting、あまりにも量が多すぎて全部は読めなかったんですけども、可能な限り目を通して、市長のスタンスがすごい対話的だなんていうのをとても感じました。単にできるできないとか、それは駄目、ではなくて、誰かの要望に対して「こういうメリットがある一方でこういうデメリットがあるよ」とか。「予算はこうなってしまうけど、将来的にそれじゃ継続するのに果たしてどうなのか」と返されて、決めつけたり、否定するわけでもない。本当に対話的だなという雰囲気を感じました。

今後、市民のファシリテーターを養成していくという話も以前出ていたと思うんですけども、やはり対話をするって、精神的、時間的なゆとりがないとやっぱり苦しいんですね。

「もう早く決めたい」となるというか。例えば生活保護を利用される方と一緒に市役所に行ったとき、窓口の方も時間がない中で「それはできません」と断定的に言われる場合があるので「ちょっと待ってください」と。「厚労省はこう言っているけれども、その”できない”というのはあなたの見解なのか、市の方針なのかどっちなんですか」というように、結構確認することがあるんですね。

やはり精神的・時間的なゆとりがないと、人って相手の話を聞く気にならないというか。なので、市長は話を聞いてくれるけど、窓口だと…というふうにならないように。ただ、僕は行政マンが遅くまで残って本当に頑張っているのを見ているので、本当にやるのがたくさんあ

るだろうなと思っていて。市長のスタンスはすごく尊敬できているので、それを一貫してやり遂げていくために、ぜひ、みんなで頑張っ知恵を出し合っていけたらいいなと思っております。以上です。

●**会長** はい。ありがとうございました。

私たちが共通に持つておかなければならない大事な視点を、今神谷委員から改めて指摘いただいたかと思ます。

これからの計画づくりで、様々なご意見をいただきながら中身を詰めていくプロセスの中で、大変ですけどやっぱり常に対話を続けていく。その中で、どんな難しい問題でも、必ず対話の中で解決策を見つけ出そうとする。見つからないことも多いんですけど、見つからなくても対話し続ける、というのがとても大事だなと改めて思っているところです。ぜひ、そういう姿勢だけは保っていただく。しかし、もう一方では計画もちゃんとつくらないといけないので、最後はいざとなれば「えいや」というところもあるかもしれない。それは仕方のないことではないかな、というふうには思っておりました。

そのほか特になければ、よろしければ最後に市長さんから感想も含めてぜひ一言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

はい、では市長さんどうぞ。

●**市長** 皆さんにご意見をいただいて、私自身も、改めてここに至るまでの我々の内部の協議なんかを思い出していました。一番お褒めをいただいた「子どもが幸せになる」という箇所は、実は内部でかなり協議をしたところです。昨日、一昨日ぐらいまでは、「子どもを幸せにする」というような言葉だったんです。私も言葉にこだわりすぎるつもりはないんですが、次の計画の最初は私が、主語を子どもにしたいと、子どもが幸せになるんだと言いたい、と伝えました。子どもをお客さんとして幸せにするんじゃなくて、子ども自身が参加するとか、意思表示するとかの機会があることで、そういったことも含めて子どもが幸せになるというまにしたいと考えました。

そういう意味で、うまくエッジが立ったものになっているのかなと思います。川西らしさ、例えば「チャレンジしたい人を後押しする」というような表現が、消えてしまったかなとか、そういう意味で少し総花的になっしまっているんじゃないかというご指摘もいただきました。表現などについては、必ずしも固めたものではなく、今後市民会議その他いろいろな取り組みの中で、我々もずっと議論していきたいなと思っています。

対話についてのお話もいただきました。16万人近い川西市民の意見全てを同時に反映させることはできません。大切にしたいなと思うのは、私自身がそれをしっかり説明する、私たち行政職員全員がしっかりと説明をしていくんだという、その姿勢です。対話と同時に両立するべきところだと思っています。

目標年次についてのお話もいただきました。松浦委員から、30年後というお話がありました。私も総合計画は8年の計画ですと言ってしまうので、どうしようかなと思いました。

ただ、川西市は令和6年8月1日に市制施行70周年を迎えます。ということは、今から30年後の計画をつくるという話をするとしたら、川西市が100年経った時のまちの姿をイメージしてもらおう。子どもたちにそういうことをイメージしてもらおうというのは、総合計画とか基本構想の議論の中で、当然8年間で実施していくこととすることをめざしながらも、その先の将来を30年後、約100周年に置いておくというのは、一つ可能性としてはあるのかなと思いました。

こんなことを市長が勝手に言うのですね、事務局がまた悩んで、寝られない夜が続くのかもしませんが、これは市長としてこの審議会にフル参加をして議論や計画に関わっていく、それだけ重要なことなのだとということでご理解をいただいて、引き続き議論を深めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●**会長** ありがとうございます。

それでは、市長さんにここまでお付き合いいただいたことに感謝申し上げまして、本日の総合計画審議会は以上にしたいと思っております。どうも皆さん長い時間ありがとうございました。

事務局から連絡事項などがあるかと思っておりますので、一旦お返しします。よろしくお願いいたします。

●**事務局** ありがとうございます。

本日議論いただきました内容については、皆様方からのご意見を踏まえ修正し、新川会長にご確認をいただいたうえで、引き続き次回の審議資料とさせていただきたいと思っております。

また、議事録につきましても、皆様に後日確認をいただきたいと考えております。グラフィックレコーディングにつきましても、本日は、審議中に画面共有することはできませんでしたが、こういう画面になりましたということを、最後に少し共有させていただきます。皆様のコメントも散りばめ、このようにまとめてくださっていますので、こちらも後日、皆様に改めてご確認いただきたいと思っております。

次回の日程では令和4年12月23日を予定しております。詳細につきましては後日、事務局よりメールにてご連絡いたします。

それでは、以上をもちまして令和4年度第2回総合計画審議会を終了いたします。ありがとうございました。

【終了時間：午後9時08分】